

# 製紙用間伐材チップの安定供給体制整備事業 事業報告

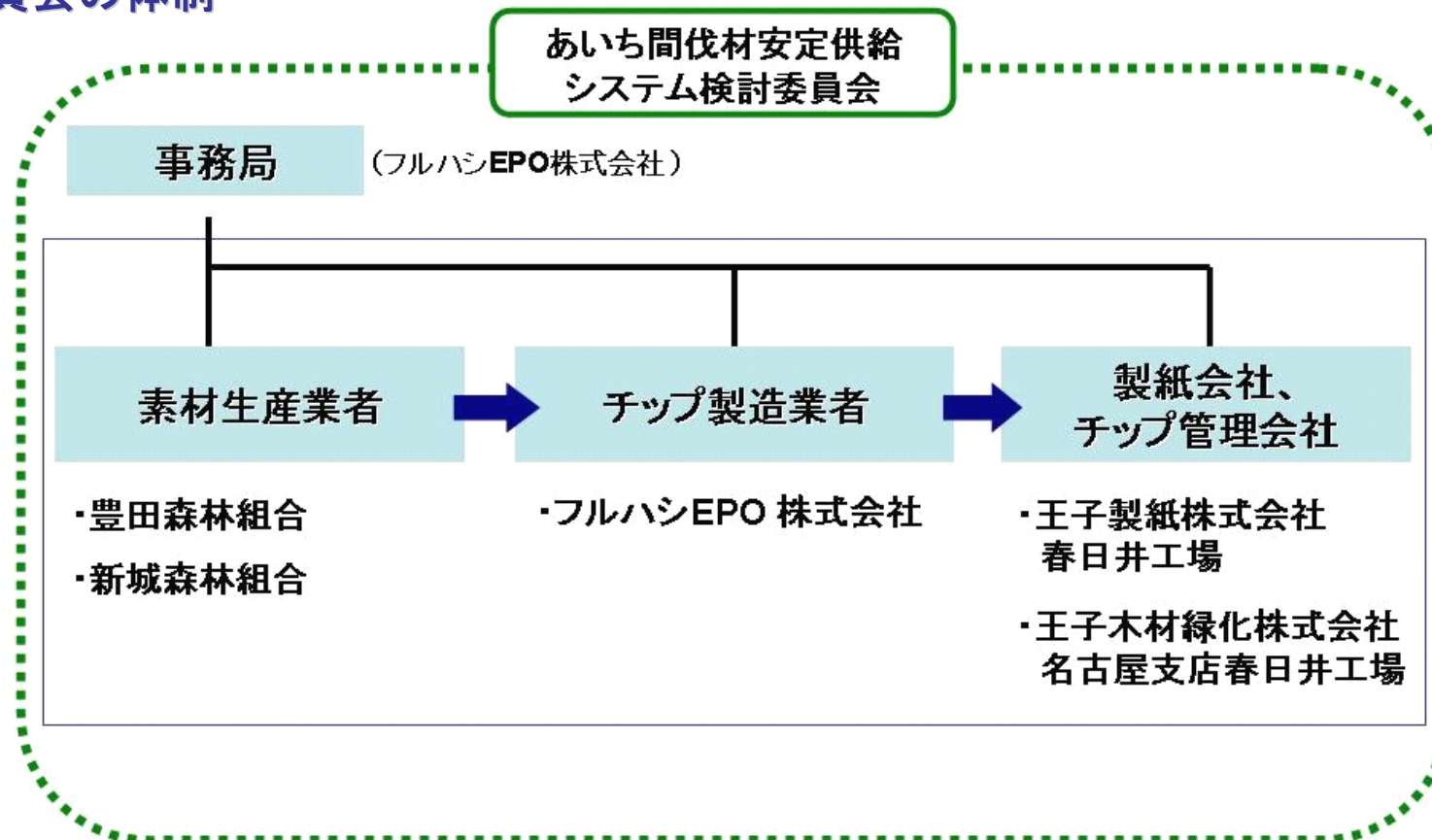
## 「あいち間伐材安定供給システム」検討委員会

フルハシEPO株式会社

### 1. 目的

本事業では、広域「あいち圏」における素材生産者・チップ製造業者・チップ管理会社および製紙会社の各者が共通の課題を検討する委員会を組織し、各委員が率直に意見交換を行うことで、他業界の状況を把握し、製紙用間伐材チップの安定供給について連携して取り組む体制を構築することを目的とする。

### 2. 委員会の体制



## 間伐材チップの安定供給体制のスキーム

# 「あいち間伐材安定供給システム」

### 現状

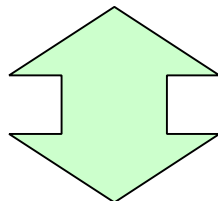
#### 【背景】

- ・愛知県内の人工林：  
建築用材の生産を目的とした、スギ・ヒノキ林が主体

#### 【参考】

スギ材価格(市況): **28,571円／dry-t**

※スギ 長級3m、径級16-18cm(市場材のうちもっとも低グレードなもの)  
10,000円／m<sup>3</sup>(平成21年11月、中値)を1m<sup>3</sup>=0.35dry-tにて換算した  
【出典:三河材流通加工センター市況】



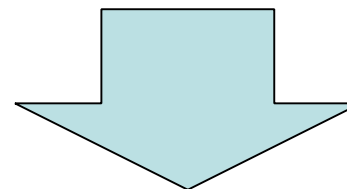
製紙用木材チップ価格: **13,500円／dry-t**

※平成21年度【出典:農林水産統計(農林水産省大臣官房統計部)】

現状、原料価格(間伐材)と  
製品価格(製紙用チップ)との間には、  
大幅なギャップがある。

### 方向性

- ①コストのギャップをどのように埋めるかが解決されなければ、間伐材は製紙用の原料として使えない。
- ②経済的に担保できるような仕組みを構築し、持続可能なシステムとすることが重要である。



## 経済原則に則った、 補助に頼らないシステムの構築

・間伐材チップを単独で扱うのではなく、建築用材や梱包材等のより価値の高い製品と組み合わせることを検討する。

・間伐材利用紙製品の価値を向上させる。第一段階として、製品の認知度の向上、企業のCSR向けシステムを構築する。

## 事業スキーム

山元還元 ← 間伐促進費

## 【特徴】

### ■ 第二次利用としてのチップ

間伐材については、第一次利用として建築用材等を生産し、第二次利用として端材から製紙原料チップを生産する。

### ■ 原料の大ロット化

各地の製材所等で発生する製材端材を取りまとめ、「間伐材端材」として大ロット化する。

### ■ コスト負担

CSR活動の一環として森林保全を行いたいと考える企業を募り、間伐推進支援費が上乗せされた紙を販売する。

### ■ クレジット方式

間伐材の使用についてはクレジット方式とし、相当量の間伐材を入荷することで担保する。

## 今後の課題

### ① カスケード利用の促進

本事業では、間伐材チップを単独で扱うのではなく、木材のカスケード利用を基本とし、主産物と組み合わせた上での活用を提案する。

したがって、今後事業を拡大するにあたっては、主産物である建築用材等の利用拡大を図る必要がある。

### ② トレーサビリティ

間伐材のトレーサビリティについては、関係団体や市町村等さまざまなレベルで検討・運用されているが、本事業においては端材についても適用できる間伐材認証システムが必要不可欠である。

### ③ さらなる環境的価値の向上

間伐材使用紙の環境価値を向上させるため、グリーン購入法、CO2キャップ制度、J-VER等CO2削減の2次的評価へのアプローチも検討する必要がある。

### ④ 地域連携と全国的展開

間伐材の製材業者や紙の販売会社、印刷会社のほか、紙のユーザー企業や行政を含めて組織化し、間伐材利用紙普及のムーブメントを「あいち圏」から起こしていくことを目指す。  
また、このような取り組みは、他地域と横の連携をとりながら全国的に展開していく必要があり、この観点から国に対して間伐材使用紙の普及について提言していく。

愛知県における想定間伐材資源量

■間伐面積: 4,147ha/年  
⇒立木材積伐採量(素材換算):  
110,219m<sup>3</sup>/年

未利用資源

■切捨て間伐材:  
64,110m<sup>3</sup>/年



■製材・加工材: 32,848m<sup>3</sup>/年  
※丸太、原材料としての利用分は除く

■製材・  
加工品(想定):  
16,424m<sup>3</sup>/年

■端材(想定):  
16,424m<sup>3</sup>/年

出典:『平成19年度愛知県林業統計』

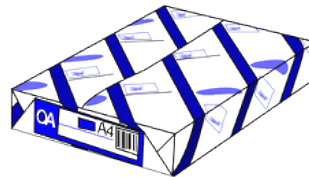
・トラック:  
約**300**台分に相当

※10tトラックにて換算



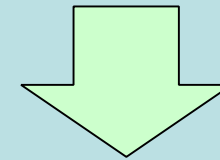
・コピー用紙:  
約**140**万包装分に相当

※1包装(A4サイズ、500枚)=2kgにて換算



間伐材の製材端材発生量:  
約**16,424m<sup>3</sup>/年**

※間伐材製材量32,848m<sup>3</sup>/年を、歩留まり50%として試算した。



当該間伐材をチップとした際の紙生産量:  
**2,874t/年**

※1m<sup>3</sup>=0.35dry-t、絶乾チップから紙への換算率50%として試算した  
(0.175t-paper/m<sup>3</sup>-wood)